

新しい米百俵!

令和2年度 長岡市「熱中!感動!夢づくり教育」の概要 夢を描き志を立てて生き抜く力を育む

方策Ⅰ

確かな学びを表現する
学校・園づくり

教育環境を充実し
確かな学力の育成を図る事業

- アシスタントティチャーの配置
- AI・JITLの派遣
- ティーチング・プロジェクト【新規】
- 学校・子どもかがやき塾
- 学校図書配置事業

教職員・保育士の資質・指導力の
向上を図る事業

- 研修講座
- 教員研究論文発表事業
- 教員研修人養成塾
- 教員海外派遣研修事業
- 公立・私立保育園等合同研修会
- 障害児保育研修会

方策Ⅱ

子どもの個性・可能性を
伸ばす学びの場づくり

連続して継続的に
能力を伸ばす事業

- 小・中学生ロボコン教室
- 科学探究塾【新規】
- 中学生スポーツ活動推進モデル事業【新規】
- スポーツ少年団事業支援
- ジュニア育成事業
- (合唱・ミュージカル・オーケストラ)
- 中学生海外体験フオーワードワークス訪問事業
- 中学生海外体験ホノルル訪問事業
- 米百俵未采塾

方策Ⅲ

子どもが熱中・感動する
豊かで多様な体験づくり

自然・科学体験事業

- ジョイフル里山工塾
- プログラミング教育推進事業
- スポーツ体験事業
- ふれあいスポーツアシスタント派遣事業
- ジュニアスポーツフェスタ

芸術・文化体験事業

- 劇団四季夢づくりコミュニケーション
- 「ゆめづくり音楽体験教室」
- 地域体験事業
- 「ようこそ「まちの先生」事業
- 縄文出前授業・体験学習

社会体験事業

- 特別授業「夢先生」
- 長岡しごと体験ランド

方策Ⅳ

子どもの育ちを
しっかり支える土台づくり

子育て・幼児教育を支援する事業

- 子育ての駅運営事業
- 子育て支援講座 (NPプログラム及び子どもと上手なコミュニケーション講座)
- 保育園・幼稚園・認定こども園等出前子育て講座
- 手話で歌う「笑顔いきいき」推進事業

家庭教育を支援する事業

- 甲春期向け年代の親学成事業
- 思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座
- 就学時家庭経営講座
- 幼児家庭経営講座
- 児童館 (児童クラブ) 食育プログラム

オール長岡で実施する、子どものやる気や学ぶ意欲を引き出す4つの方策



教育は未来への希望である

— 米百俵の精神が連鎖と息づくまち長岡 —

長岡市教育委員会 学校教育課

〒940-0084 新潟県長岡市幸町2丁目1番1号

さいわいプラザ内

TEL: 0258-39-2249

FAX: 0258-39-4710

E-mail: gakkyo@kome100.ne.jp



熱中!感動!夢づくり教育

- ・令和2年度は、合計74事業を、総事業費約4億7千万円で実施
- ・方策Ⅱについては、希望制による連続型事業とし、必要に応じて参加料を徴収

I 確かな学びを実現する学校・園づくり

事業内容例1 学校裁量予算で子どもの意欲を引き出す「学校・子どもかがやき塾」

学校に自由に使える予算を配当し、各校が特色ある教育活動を実施
さらに、学校が創意工夫により企画・実施する事業に「夢企画事業」
予算を加算配当

活用
事例

新町小夢企画「新町ものづくりワークショップ」

地域在住の方や長岡で活躍するものづくりのプロから技術を学
ぶワークショップを開催。ものづくりの楽しさや、仕事に取り組
む人の思いを感じ、将来の職業選択や夢の創造に役立てる



事業内容例2 人間性豊かな教員を育てる「教員サポート練成熟」



経験豊富な校長OB・OGがマンツーマンで指導
教員の総合的な人間力向上を目指す

特徴 CloseUP!

平成15年度から17年間で1,200人以上が受講
全国に先駆けた取組みで、現在では県内各自治体でも実施されている

II 子どもの個性・可能性を伸ばす学びの場づくり

事業内容例1

自らの未来を切り拓く「米百俵未来塾」

人材育成に取り組む団体が連携し、多彩な分野に触れる連続講座を実施

講座
一例

米百俵のゆかりの地めぐり～150年前にタイムトリップ～
先人の想いや学びを体感しながら、米百俵の精神について学びを深
める

講座
一例

世界はトモダチ～話そう!見つけよう!平和のヒント～
留学生との交流を通して、多様性を認め合うことが平和な世界への
第一歩であることを体感し、知る



事業内容例2

レベルアップを目指す「中学生スポーツ活動推進モデル事業」

“もっと活動したい”“よりレベルアップを目指したい”という生徒を対象に、関係スポーツ競技団体が連携
して指導する機会を連続して提供。生徒が自主的に参加し、個人技能や身体機能の向上を図る

特徴 CloseUP!

令和2年度はバスケットボール、サッカー、
軟式野球、柔道の4種目を実施



III 子どもが熱中・感動する豊かで多様な体験づくり

事業内容例1 情報活用能力を育成する「プログラミング教育推進事業」

希望する学校にロボット型情報端末（ロボホン）と講師を派遣し、
授業でプログラミング体験の機会を提供

特徴 CloseUP!

全国初!市立小学校を対象にロボット型情報端末（ロボホン）を
活用した出前授業を平成30年度から開始



事業内容例2

様々なスポーツ種目を体験
『子どもスポーツチャレンジ事業』



事業内容例3

プロに学ぶ、夢を持つ大切さ
『特別授業「夢先生」』



事業内容例4

長岡で学ぶ・働く魅力を感じる
『長岡しごと体験ランド』



IV 子どもの育ちをしっかりと支える土台づくり

事業内容例1 全国初!保育士がいる屋根付き広場「子育ての駅運営事業」

保育士や子育てでコンシェルジュがいる子育て支援施設「子育て
の駅」を運営
単なる遊び場ではなく、保育、交流、相談、情報提供機能を有
しており、世代や文化を超えた人々が集い、交流できる

特徴 CloseUP!

市内全11地域に子育ての駅を設置。文化や自然、歴史など、それ
その地域特性を生かしながら地域全体で子育てを支え合う



事業内容例2 親子で学ぶ「幼児家庭教育講座」



家庭教育について学ぶ機会を保護者に提供。
家庭の教育力向上を図る

講座
一例

パパママと赤ちゃんの ふれあい遊び

親子同士の交流や子育てについて
の情報交換をしながら、赤ちゃん
の生活習慣や赤ちゃんとのふれあ
い方・遊び方などを学ぶ



ICTを活用した教育環境の整備について

1 経緯(背景)

令和元年度、国は多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを、全国の学校現場で持続的に実現させるために、高速大容量の通信ネットワークを前提とした児童生徒1人1台端末を整備する方針を決定した。具体的には、令和5年度までに、児童生徒が1人1台の端末を利用できる環境の実現を目指し、3人に1台分を整備する自治体に対して、残り3人に2台分の整備を補助することとしていた。

国は、今年度になり、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により子どもたちの学びを保障できる環境を早期に実現する必要があると考え、令和5年度までとしていた整備を令和元年度内に前倒しした。

2 事業概要

長岡市は、国の方針に基づき、当初の計画を前倒しし、国の補助制度を最大限活用して、今年度中に市立小・中・総合支援学校に、児童生徒が1人1台のタブレット端末を活用することができる学習環境の整備を行う。

○ 校内無線LAN整備

全普通教室(特別支援学級含む)及び適応指導教室に1GBの校内LAN (LANケーブルは10GB対応)及び無線アクセスポイントを設置

○ 1人1台タブレット端末等ICT機器の整備

タブレット端末:Chromebook、大型提示装置(テレビ)・実物投影機等周辺機器
 [3人に2台分のタブレット] → 備品購入:補助金対象:(R2年度:補助率100%)
 [3人に1台分のタブレットと周辺機器] → 5年リース契約...地方交付税措置対象

3 今後のスケジュール(案)

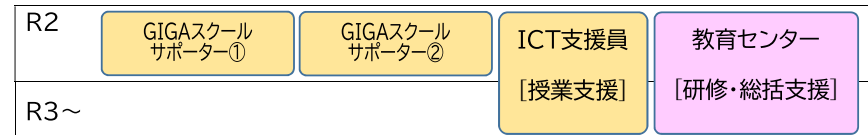
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
校内無線LAN整備	【工事】 全普通教室							
タブレット端末等ICT機器		【リース】(小・中・総合支援学校) 児童生徒3人に1台+教職員・周辺機器						
			【備品購入】(小・中・総合支援学校) 児童生徒3人に2台					
							【リース】 (小・中・総合支援学校) 児童生徒1人1台+ 教職員・周辺機器	
			【リース】 高等総合支援学校分					

4 概算事業費(財源内訳)

	事業年度	概算事業費 (うち一般財源)	備考
校内無線LAN (全普通教室)	R2完了	7億7,000万円 (3億8,500万円※1)	・補助金対象(補助率50%)
1人1台タブレット端末等 ICT機器		15億円 (10億円)	
3人2台分のタブレット	R2完了	5億円 (0円)	・備品購入 ・補助金対象(補助率100%)
3人1台分のタブレット	R2~7	4億円 (4億円)	・5年リース契約 ・地方交付税(普通)措置対象
周辺機器(大型提示装置(テレビ)・ 実物投影機等)	R2~7	2億円 (2億円)	〃
ソフト(ICT支援員)	R2~7	4億円 (4億円)	〃
GIGAスクールサポーター		3,900万円 (1,950万円)	
① 初期設定・初動支援	R2	3,000万円 (1,500万円)	・業務委託 ・補助金対象(補助率:50%)
② 活用支援	R2	900万円 (450万円)	〃

※1:学校教育施設等整備事業債(補正予算債)対象(うち、60%が地方交付税(普通)措置対象)

5 教員への支援体制



職種	業務内容
GIGAスクールサポーター①	・タブレット端末の初期設定作業、初動操作説明 ※各校5回程度訪問等支援
GIGAスクールサポーター②	・タブレット端末の活用についての支援 ※各校3回程度訪問等支援
ICT支援員	・授業における学習支援ソフトの活用等具体的な指導の支援 ※各校月に2回程度訪問支援
教育センター	・タブレット端末活用についての相談受付等 ・研修の実施等職員に対するサポート全般

6 長岡市の1人1台端末と高速大容量ネットワーク導入後のイメージ(案)

※別紙のとおり

1人1台端末と、高速大容量ネットワークの導入による学習の変化

地域の教育力を生かした学習の展開



多様な交流活動の実現



- ・学校間交流、国際交流等の多様化の促進
- ・外国籍家庭と学校との良好な関係構築をサポート

これまでにない活動への広がり
 ・体の動きをその場で確認し、活動に生かす。
 ・地域企業との商品開発
 ・発見したことをすぐに共有する。

- ・高等教育機関と連携し、より高度な指導を提供
- ・地元企業と連携し、商品開発等にも取り組む



直接見学できない場所の見学や疑似職場体験が可能になる。

- ・地域企業と連携し、長岡の企業の特徴を体験的に学ぶ機会の提供



オンラインによって、市内の多様な業種の人々を講師に、発展的な学習ができるようになる。

- ・地域企業、高等教育機関と連携し、「長岡らしい」発展学習を提供



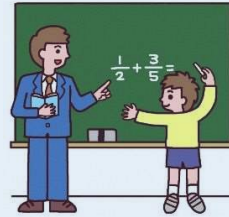
これまでにない活動への広がり
 ・体の動きをその場で確認し、活動に生かす。
 ・地域企業との商品開発
 ・発見したことをすぐに共有する。

- ・高等教育機関と連携し、より高度な指導を提供
- ・地元企業と連携し、商品開発等にも取り組む



子どもが話し合う授業では

これまでの授業スタイル



アナログな作業によって、1時間の中で十分な話し合いの時間を取れない。

- ・課題を黒板に書いて提示
- ・教師がノートを集めて集約、情報の分析・整理
- ・プリントによる習熟、教師による採点・集計

→十分な議論をしにくい

これからの授業スタイル



タブレット上で情報を共有するスタイルへ

- ・授業の課題を一齐に送信
- ・子供の考えを瞬時に集約・整理し、全員で共有
- ・タブレット上で解答、同時に採点・集計するドリル

→議論の時間を大幅確保

考えを集める、集約する、情報を収集するといった作業を簡略化

学校で大切にしたい、児童生徒が議論をする時間を確保

常に情報を取捨選択・分析整理し、議論に活用することで、情報の読解力や論理的思考力を強力に育成

考えを深めるための話し合いが充実



- ・瞬時に集めた情報をもとに課題について話し合う。
- ・十分に時間を確保することで、子どもの見方や考え方を広げ、深める。

多様なニーズへの対応

在宅、適応指導教室等、不登校児童生徒の学習参加を促進



- ・市内フリースクール等と連携し、多様なニーズに対応した支援の実現



特別な教育的ニーズへの柔軟な対応。
 ・個々の状況に応じた支援の実現に向けたアプリの整備

- ・特別支援学級
- ・総合支援学校
- ・通級指導教室
- ・民間施設との連携



入院中の児童生徒が学習に参加できる環境を提供

- ・長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、立川総合病院と連携
- ・医師の許可によるタブレット上での授業参加

安全安心で快適な教育環境について

1 学校施設の老朽化状況

現在の学校施設の建築時期は、児童生徒数の増加期であり、木造校舎から鉄筋コンクリート造校舎への移行時期でもある昭和50年代から平成1桁代に集中しています。築20年で何かしらの劣化が顕在化し始め、築30年が経過する頃からその状況が深刻なものとなり、毎年多くの学校で、施設や設備の不具合が生じています。

2 将来的な課題

- ① 築50年程度で建替えている今までの整備サイクルでは、令和10年度以降に集中する大規模な更新時期に対応することができません。
- ② 人口減少と少子高齢化が進むなかで、限りある財源を活用して学校施設の維持保全に努めているが、これまでの事後保全では建物の防水性能や給排水設備等の維持管理が困難になる懸念があります。

3 学校施設の整備方針

長岡市学校施設長期保全・再生計画「スクールフェニックスプラン」(平成27年8月策定)に定める整備方針に基づき、学校施設を維持していきます。

保全の方針：計画的な保全による長寿命化

学校施設の劣化状況を的確に管理し、機能・性能維持のための定期的な保全工事(約25年サイクル)を計画的に実施しています。

築50年程度で建替えている現在の整備実態から、計画的な保全を実施することによる建物の長寿命化(70年～80年)を図り、更新時期に余裕を持たせます。

改修の方針：教育環境のグレードアップ(リニューアル改修の推進)

築50年目に行う定期的なメンテナンス工事の際は、建物の基本性能の回復を図るだけでなく、必要に応じて現代の学校施設に要求される性能や機能の付加を行う教育環境のグレードアップ工事を検討します。また、学校毎の建築年代や規模等に応じた最適な工事(「全体的なリニューアル工事」「基本性能を維持する修繕工事」等)を選択し、実施します。

合理化の方針：教育活動に支障のない範囲での施設の合理化の推進

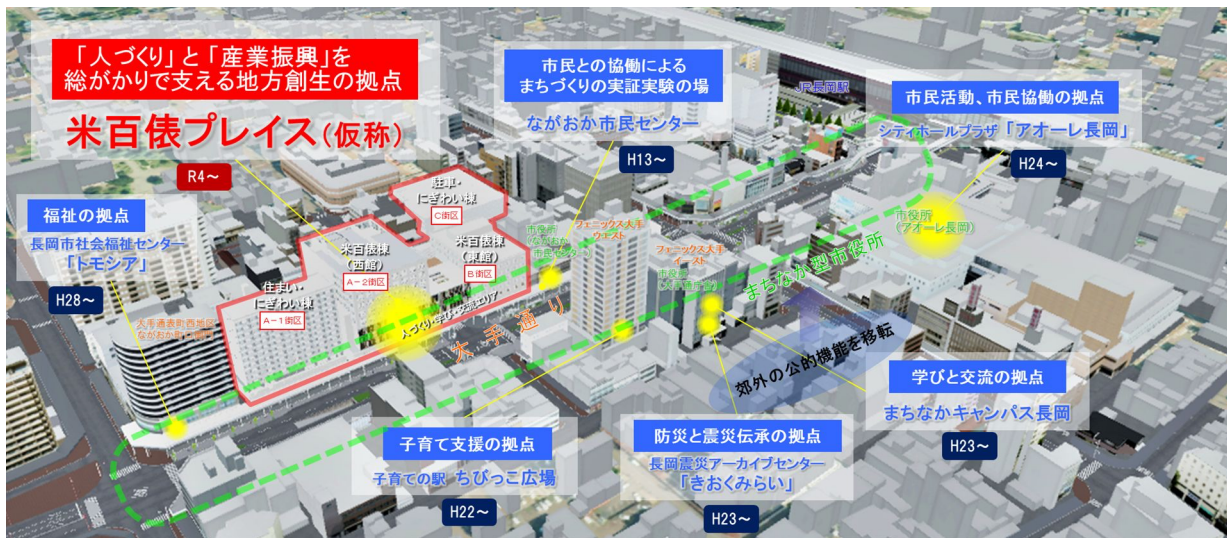
将来児童生徒数の動向や地域の実情を勘案し、教育活動に支障のない範囲で学校プールの共同化、不要な建築の減築、他施設との複合化等により合理的な施設整備を推進します。

4 スクールフェニックスプランに基づいて実施した大規模改造工事等

種別	主な改修内容	H27-R1 対象校	H27-R1 事業費 年間平均 (単位：億円)	備考
大規模改造工事	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上防水 ・外壁 ・内壁 ・床 ・天井 ・電気設備 ・機械設備 	新町小(H26-H27) 栃尾東小(H26-H27) 上組小(H28-H30) 上川西小(H29-R1) 越路小(H30-R1) 大河津小(H29-H30) 西中(H30-R2) 堤岡中(H29-H30)	事業費：約18.5億 国費：2.5億(14%) 地方債：13.4億(72%) 一般財源：2.6億(14%)	プラン策定以前に 工事を実施した学 校 ・才津小 ・東北中
トイレ改修工事	<ul style="list-style-type: none"> ・便器 ・内壁 ・床 ・天井 ・配管 	中島小、表町小、浦瀬小、 栖吉小、宮内小、岡南小、 大島小、深沢小、関原小、 豊田小、川崎東小、 青葉台小、上通小、 信条小、寺泊小、 栃尾南小、下塩小、 与板小	事業費：約2.1億 国費：0.6億(29%) 地方債：1.3億(62%) 一般財源：0.2億(9%)	R2年度末時点で 児童・生徒用トイレの概ね半数以上 が洋式化されている 学校数(割合) ・小学校 41/55(74.5%) ・中学校 7/27(25.9%) ・全体 48/82(58.8%)

米百俵プレイス(仮称)について

1 中心市街地の政策展開と拠点整備



「人づくり」と「産業振興」を
総がかりで支える地方創生の拠点

米百俵プレイス(仮称)

福祉の拠点

長岡市社会福祉センター
「トモシア」

市民との協働による
まちづくりの実証実験の場

ながおか市民センター

市民活動・市民協働の拠点

シティホールプラザ「アオーレ長岡」

学びと交流の拠点

まちなかキャンパス長岡

子育て支援の拠点

子育ての駅「ちびっこ広場」

防災と震災伝承の拠点

長岡震災アーカイブセンター
「きおくみらい」

中心市街地の特徴

400年前に長岡城とともに開かれ、公民協働で創り上げてきた中心市街地は、交通、行政、金融、産業など多様な都市機能が集積し、市内外の多くの人が行き交う、中越圏域を代表するまちの顔である。

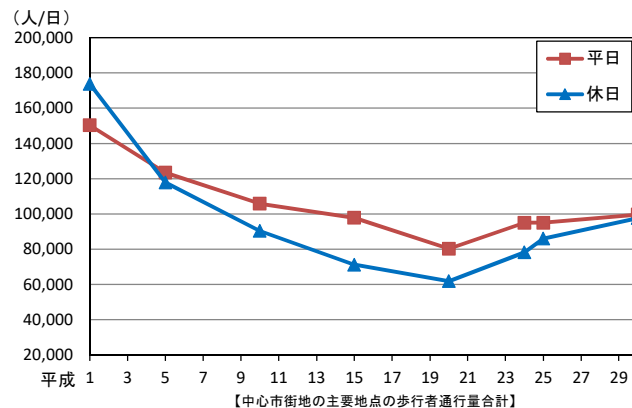
整った
都市機能を
最大限活用

人が集い、情報のトレード
によりイノベーションを創出

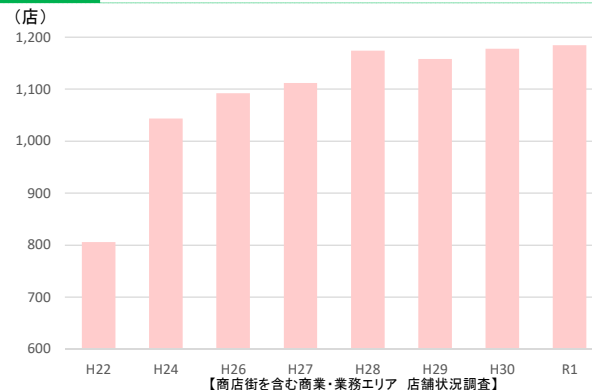
ハブとして
市域、圏域へ
効果を波及

未来へ 広域へ
まちを“つなぐ”

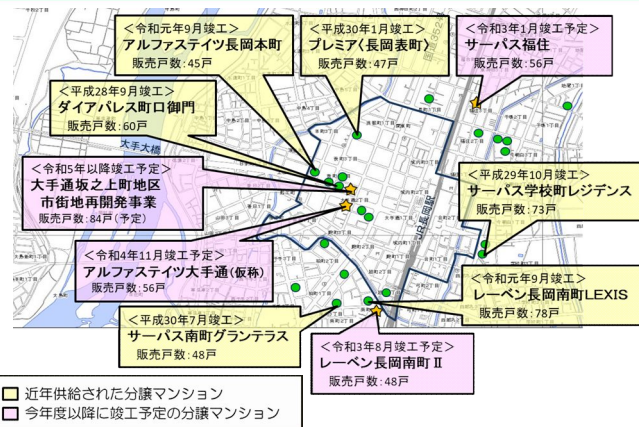
効果① 歩行者が平成10年頃の水準まで回復



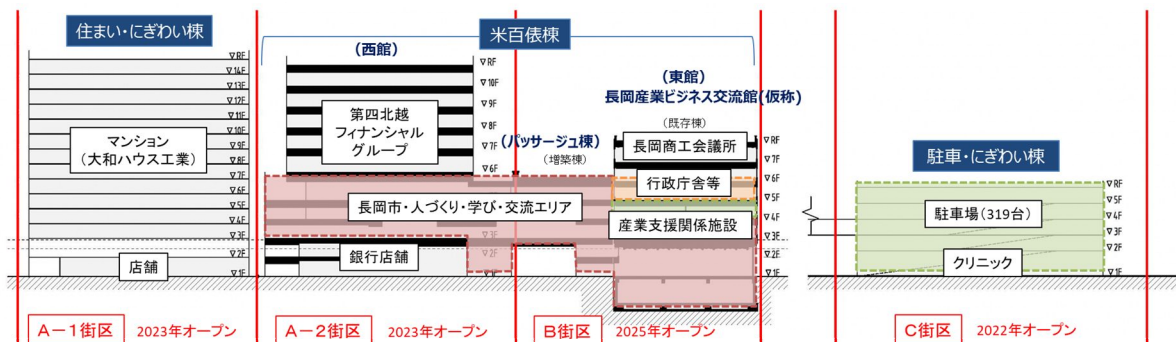
効果② 営業店舗(民間投資)が増加



効果③ 駅周辺でマンション建設(民間投資)が続く



2 米百俵プレイス(仮称) 施設の概要



米百俵プレイス(仮称)について

3 人づくり・学び・交流エリアの基本方針と導入機能

「人づくりと産業振興」を総がかりで支える地方創生の拠点

未来へつなぐ新しい米百俵 — 長岡の歴史や文化、まちづくりの精神で新たな価値を創造する



創出

まちなかから市全域へ
 ・長岡全域のイノベーション
 ・新たなにぎわいと回遊性を高める人の流れ

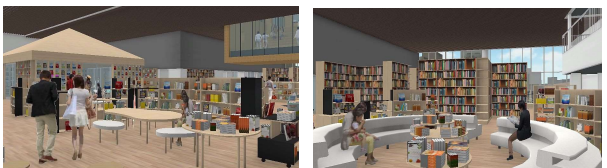
米百俵の精神・新しい米百俵(未来への投資)、互尊独尊(修養の場の重要性)

現代版「国漢学校・互尊文庫」の実現

人づくり・学び

新しいスタイルの図書館(人づくり・学びの拠点)

■まちなか図書館



互尊文庫を移転。生活に密着した「くらし」や「しごと」に関する図書を置き、レファレンスや情報提供サービス等課題の解決に役立つ図書館。

■子どもラボ



未来を生き抜く力を養う学びの場(個性を育む学び・本物の体験)

■若者ラボ



中高生のにぎわいを生む居場所、個性や未来への可能性を伸ばせる場

■歴史人物史展示

テーマは「米百俵」と「長岡イノベーション史(あらゆる分野)」。デジタル技術を活用した思考・体験型の展示



・まちなか(中心市街地)に相應しい、新しい図書館。
 ・子どもラボ、若者ラボなど施設内で実施するプログラムは、まちなかの既存施設の類似プログラムを整理し、実施する。

産業振興

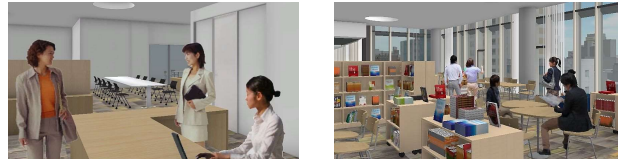
産業人の育成と産業基盤の強化の拠点

■4大学1高専とのイノベーション拠点(NaDeC構想の実現の場)

- ・産業振興と人材育成を進める「長岡版イノベーション」の拠点の整備
- ・「NaDeC構想」(H29.11)による4大学1高専の活動拠点の整備
- ・先行実施施設「NaDeC BASE」で導入機能をブラッシュアップ

■産業ビジネス支援の拠点(商工会議所、市商工部・観光交流部、産業支援機関の集積を活かす)

- ・産学官金でワンストップサービスを行う「長岡産業ビジネス交流館(仮称)」を整備
- ・企業が市民や来館者と交流できる場を提供



5階フロアに、経営支援・起業支援の相談カウンター、教室・階段ライブラリー、ファブラボ、オープンイノベーションエリア、サロン、ギャラリーラボなどの空間を整備

- ・大学や産業界との交流・連携を促進することで、産業人の育成や商品・サービスの開発を促す。
- ・産業や社会を変える力を持つ多様な人材が集まり、交流する場を提供。
- ・学生や若者が起業しやすい環境を提供することで新しいビジネスの創出を促す。

にぎわい

回遊性を高めるにぎわい空間

■緑あふれる屋内空間、屋上庭園、カフェ・レストラン、店舗

誰もが気軽に集い語り合うことができる緑の憩いの空間・交流スペース



▲3階・グランパッサージュ ▲5階・屋上庭園

・まちなか(中心市街地)の新たなにぎわいを創出する活発な交流が生まれる付加機能。

人づくり・学び・交流エリア整備スケジュール(専有面積 約10,600㎡)

- 令和2年度 内装工事実施設計
- 4年度 A-2街区(米百俵棟西館)内装工事
- 5年度 米百俵棟西館 オープン
- 6年度 B街区(米百俵棟東館・パッサージュ棟)内装工事
- 7年度 米百俵棟東館・パッサージュ棟オープン

米百俵プレイス(仮称)について

4 計画事業費について

総事業費	263億円
民間等の投資	104億円
国の交付金等	68億円
市の負担額	91億円
うち起債 国の交付税措置あり	62億円
うち一般財源 都市整備基金を充当予定	29億円

- ・上記事業費は公表している計画段階のものであり、工事費の増減等により変更する場合があります。
- ・コスト縮減に向け、継続してあらゆる機会に検討を進めています。

5 機能の統廃合・施設維持管理費等の考え方

長岡市公共施設等総合管理計画に基づき、「人づくり・学び・交流エリア」の施設維持管理費及び施設運営費については、類似機能を持ち機能の継承や統廃合が想定される、まちなかの既存施設や関連施設等の経費の総額以内に収めることを目標に検討を進めています。

再開発事業に伴い行政機能の見直しを検討している公共施設の一例



青少年文化センター
(子どもの学び)
(平成31年3月閉館)



互尊文庫
(図書館機能)



旧大和長岡店
(NaDeC BASE)



ながおか市民センター
(行政庁舎)

6 スケジュール

	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
住まい・にぎわい棟 (A-1街区)	権利者店舗		除却	建築工事		オープン		
米百俵棟西館 (A-2街区)	NaDeC BASE		除却	建築工事		機能移転 オープン		
米百俵棟東館 (B街区)	第四北越フィナンシャルグループ					除却	耐震改修・増築工事	機能移転 オープン
駐車・にぎわい棟 (C街区)	北越銀行駐車場		除却	建築工事	オープン			
見直し 予定の 検討施設	青少年文化センター	利用	機能廃止					
	旧大和長岡店	利用	機能廃止					
	互尊文庫		利用			機能廃止		
	ながおか市民センター			利用				機能廃止

NaDeC BASE × CLIP長岡 [H30~]

再開発事業の先行実施施設として「NaDeC BASE」を開設。4大学1高専の専門性に、民間スタートアップ拠点に採択された「CLIP長岡」、市内金融機関や商工会議所で組織する「ながおか創業応援ネットワーク」の強力なバックアップも加わり、学生の起業支援を実施。



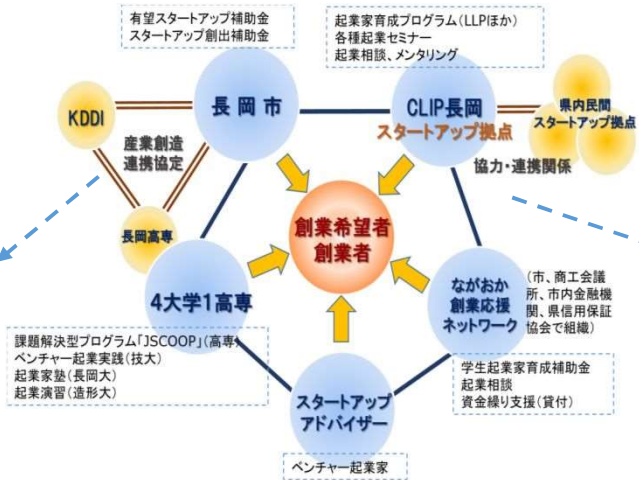
▲ NaDeC BASE (R2.9 市民センター地下へ移転)

市、長岡高専、KDDIの三者による
地方創生に向けた産業創造連携協定
(令和2年8月5日締結)

＜内容＞

- 1 先端技術の地域活用についての共同研究
- 2 国際的視野を持ったイノベーション人材および起業家財の育成
- 3 地域の企業やスタートアップ企業との連携で取り組む地域課題の解決
- 4 地域内資源の活用と高度化の活用と高度化

＜起業創業支援体制＞



CLIP長岡のこれまでの実績(件数)

年度	起業	相談
H26	8件	169件
H27	30件	299件
H28	38件	326件
H29	36件	331件
H30	30件	273件
R1	33件	255件
R2※	20件	143件
合計	195件	1,796件

※R2は9月末現在



▲ CLIP長岡 (R2～ NaDeC BASEに隣接入居)

新潟県民間スタートアップ拠点「CLIP長岡」

県が、民間事業者によるスタートアップ拠点の設置を支援。

＜コンセプト＞

新潟県発で新たなビジネスを創出したい若者や学生が、企業、大学や高専、行政とコラボレーションしながら、ITやものづくりなどの分野で新産業を創出できるクリエイティブな空間を提供する。

＜セールスポイント＞

- ・学生起業支援に特化
- ・ビジネスプランコンテストの活用
- ・大学・高専と企業の交流拠点であるNaDeC BASEの施設活用

＜支援プログラム＞

～人づくり・学び・交流エリアの整備～ 米百俵プレイス(仮称) [R5～]

【基本方針】

「人づくりと産業振興」を総がかりで支える地方創生の拠点

【産業ビジネス支援の拠点】

(商工会議所、市(商工部・観光交流部)、産業支援関係機関の集積)

産学官金の集積機能を活かし、頑張る企業や働く人を総合的に支援する産業振興の拠点・産業ビジネス交流館(仮称)

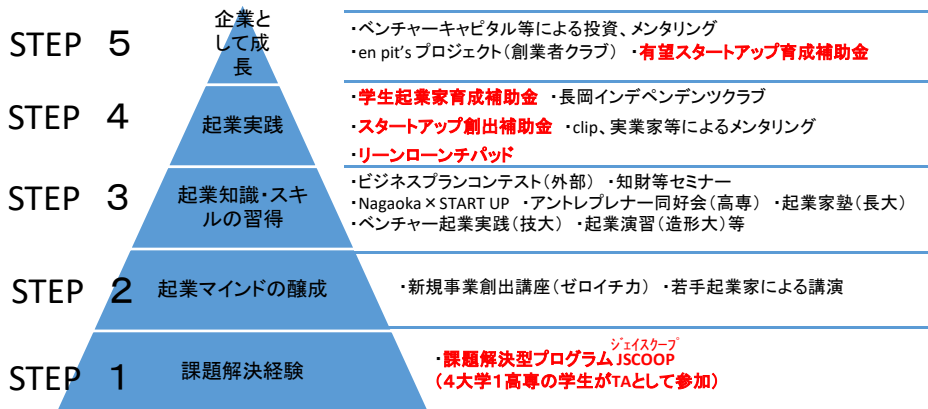
産業の創出や企業経営等の支援

若者の就業や起業・創業の支援

地場産業を担う人材の育成

～NaDeC構想に基づいた段階的な起業支援～ ファーストペンギンプログラム

天敵が潜んでいる海の中に、餌を求めて群れから最初に飛び込む勇敢なペンギンのようにベンチャー精神を持ち、リスクを恐れず果敢に挑戦する起業家を支援



※主な実績 []は実施主体

＜学生等起業家創出事業＞

■ **有望スタートアップ育成補助金**(成長支援)[長岡市]
R2年度 : 3件(株)プロセスル、(株)サケアイ、(株)KaaP)

■ **学生起業家育成補助金**(起業支援)[創業応援ネットワーク]
H30年度: 1件(拾壹・ビッグストーン(株))
R1年度 : 2件(ベイビーチャップリン、(株)サケアイ)
R2年度 : 3件(株)プロセスル、(株)THE TWO、(株)雷神)

■ **スタートアップ創出補助金**(起業支援)[長岡市]
R2年度 : 1件(株)Integral)

＜起業家育成事業＞

■ **リーンローンチパッドプログラム**[長岡市:技大]

内容:新規事業の効率的な立ち上げ方を学ぶシリコンバレー流の事業化プログラム
R1:参加者29人・8チーム(うち起業1件、サケアイ)
R2:参加者20人・6チーム(うち起業1件、雷神)

■ **課題解決型プログラム JSCOOP**[高専]
内容:参加学生のアントレプレナーシップ(起業家精神)の獲得支援
R1:参加者 長岡高専本科4年生 11人
R2:参加者 長岡高専本科4年生 209人



長岡市の強み

4大学1高専+15専門学校

工学・デザイン・経済経営・看護と幅広い分野の高等教育機関が存在。
4大学1高専で学生数約5千人、15専門学校を含めると約8千人

長岡技術科学大学
(国立、工学)
・世界大学ランキング日本版2017で工科系大学全国2位

長岡造形大学
(公立、デザイン)
・「デザイン思考」ベースの「イノベーションデザイン領域」を大学院に新設

長岡大学
(私立、経済経営)
・知の拠点施設として地方創生推進事業を実施

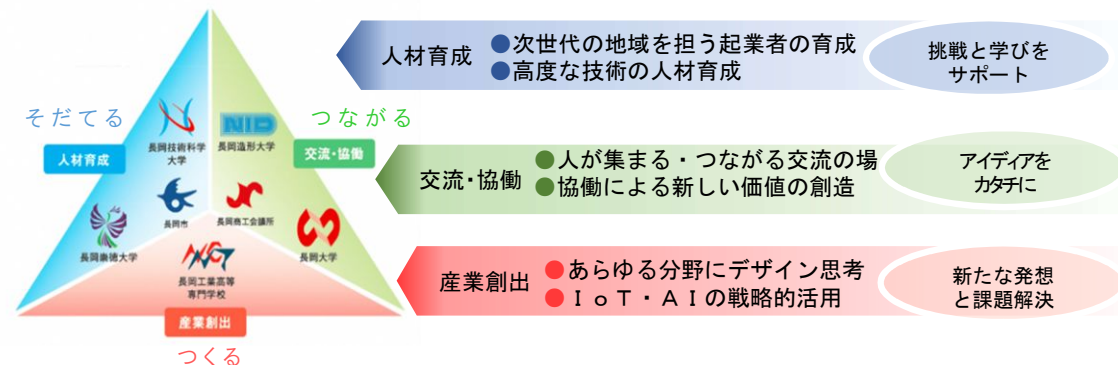
長岡工業高等専門学校
(国立、工業)
・ロボコン世界大会で優勝多数
・卒業生の多くが長岡技大へ

長岡崇徳大学
(私立、看護)
・中越地域唯一の看護大学
・地域医療に貢献

※イノベーションに必要とされる工学・デザイン・経営の3つの単科大学がある地方都市は長岡だけ

NaDeC構想 H29(2017)~

長岡市の中心市街地の再開発事業で整備する地方創生の拠点に対し、市内の大学と高専が産業界と一体となって「人づくり・産業振興」に取り組む構想。



NaDeC BASE H30(2018)~

連携に向けコンソーシアムを設立。活動の場として、再開発事業に向けた先行実施施設「NaDeC BASE」を平成30年に開設。令和2年9月からながおか市民センターに移転。



NaDeC構想推進コンソーシアムの活動

NaDeC BASEの運営

ワーキンググループで推進

- ①産学協創
 - ②起業支援
 - ③就職・インターンシップ
 - ④授業連携
 - ⑤学生運営委員
- 〈構成団体負担金〉
大学・高専110万円、会議所60万円、市250万円

NaDeC BASE利用実績H30.6~

利用者 約19,000人 (R2.3現在)

ものづくり工房利用実績 H31.2~
利用者 394人 (R2.3現在)
3Dプリンター 162人
レーザーカッター 136人
機器講習会受講者 75人

産業イノベーションの取組

大学・高専が持つ「知」「シーズ」と、企業が持つ技術・経営資源を融合して、新しい産業やビジネスモデルの創出を目指す。

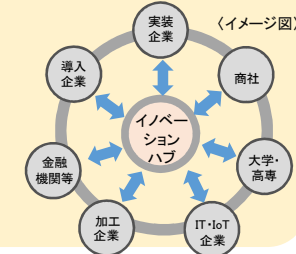
○イノベーションハブの取組

- ・地域の課題解決や事業化に取り組むプロジェクト(イノベーションハブ)を実施
- ・地域に共通の課題について、技術の「使い手(企業、介護施設等)」「作り手(企業、学生等)」「つなぎ手(商社、金融機関、行政等)」など異業種のステークホルダーが集まり、課題解決と新しい産業に繋げる。

- ステップ1 現場の課題をヒアリングして、課題を明確化する
- ステップ2 業界の常識の枠を超えた自由な発想でアイデアを出し合う
- ステップ3 実装に向けてアイデアを育て、試作品を製作する
- ステップ4 実証実験を行い、精度を高める
- ステップ5 企業の新事業展開やベンチャー企業による事業化を促す

ハブの分野・設立時期・段階

- ①介護 :H30.7 ステップ3・4
- ②IoT :H30.7 ステップ4
- ③AI :H31.2 (人材育成を実施)
- ④水 :R1.12 ステップ3・4
- ⑤ロボット :R2.9 ステップ1
- ⑥発酵(予定) :R2.11(予定) ステップ1



○ODX化の推進

デジタルビジネスイノベーション補助金 デジタル化により新しいビジネスを展開するための開発・導入を支援 R2:8件

○バイオエコノミーの推進

地域資源や特性を活かした発酵・バイオ関連事業を実施
・長岡バイオエコノミー・シンポジウムを長岡技大、産総研と共同開催(R2.1) 250名参加
・産業イノベーション課内にバイオエコノミー推進チームを設置(R2.4)
環境政策課、農水産政策課、下水道課の職員も兼務

○技術高度化、高付加価値化の促進

- ・ものづくり未来支援補助金 R1:13件、R2:9件
- ・IT・IoT設備投資支援補助金 R1:5件、R2:9件
- ・4大学1高専ワンポイント活用事業補助金 R1:3件、R2:4件

○NPO法人長岡産業活性化協会NAZEを通じた地域産業の支援

- ・産学連携課題解決事業(×高専「JICAリバースイノベーション」など)
- ・現場改善支援事業(改善スクール、5S活動など)
- ・情報・技術発信事業(「豪技」認定、×工業高校PR動画など)

○ものづくり人材の育成

- ・ロボカップジャパンオープン開催 2日間で延31,500人来場、23企業・団体参加(R1.8)
- ・ものづくりフェア(ロボコン)開催 2日間で延23,800人来場、41イベント・企業ブース出展(ほか同時開催イベント39ブース) (R2.2) ※R3はオンライン中心に開催予定

1. 目的・背景

公設産業団地の分譲率は97%、立地を希望する企業に応える受け皿が無い



さらなる産業振興、雇用創出のため、新たな産業団地の開発が必要

2. 長岡北スマート流通産業団地の概要

- 整備主体 長岡地域土地開発公社
- 総面積 約36.4ヘクタール
- 分譲面積 約26.7ヘクタール 全33区画
- 分譲価格 15,200~16,600円/㎡
- 分譲状況 第1期エリア 進出決定企業7社
第2期エリア 進出決定企業7社(1社辞退)
第3期エリア 10月30日予約分譲受付終了(上記辞退分を含む)

3. 長岡北スマート流通産業団地の特色(進出企業が評価したポイント)

- 交通利便性の高い高速道路インターチェンジに直結
- 市街地や既存産業団地と近接性
- 4大学1高専との連携 など

4. 波及効果見込(第1、2期エリア進出企業の事業計画から推計)

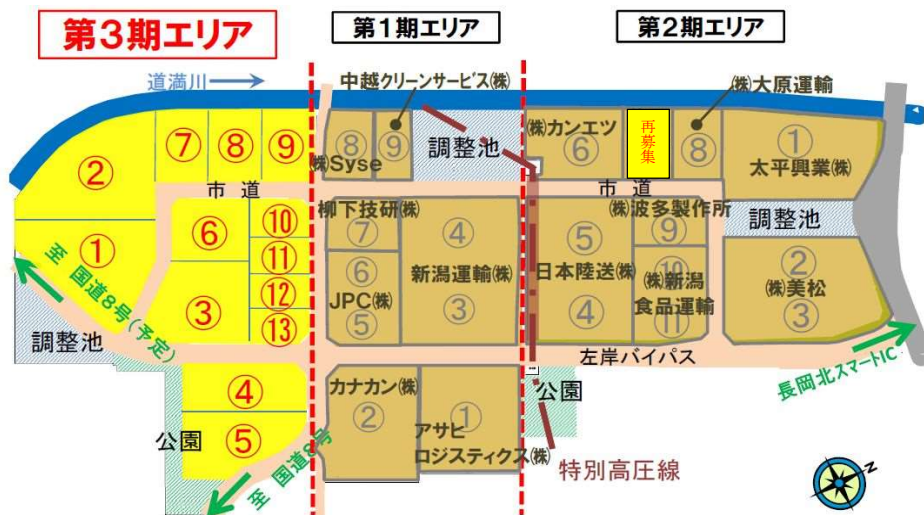
- 進出企業数 23社
- 設備投資額 235億円(建物・設備192億円、土地43億円)
- 売上高 275億円
- 雇用者数 1,200名(うち新規雇用400名)

5. 主なスケジュール

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第1期エリア	●引き渡し (10/19)			●操業開始 期限(3年)
第2期エリア	造成工事 → 測量分筆	●引き渡し		
第3期エリア	造成工事 → 測量分筆		●引き渡し	
	予約受付 → ●進出企業決定 進出協定締結			

6. 事業採算性

本事業は、長岡地域土地開発公社が土地を取得し造成を行っている。
造成費は、分譲収入で賅っている。



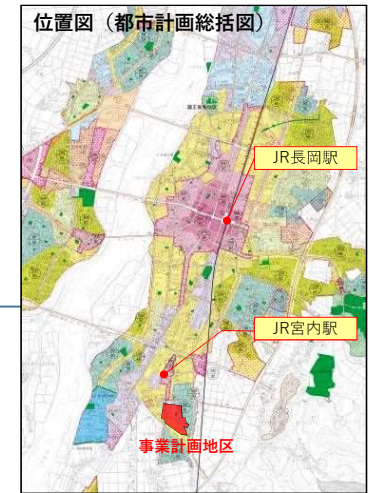
第3期エリア
13区画 9.38ha
(R4年度分譲予定)
予約分譲受付終了

第1期エリア
9区画 7.76ha
10月19日売買契約

第2期エリア
11区画 9.63ha
(R3年度分譲予定)

1 事業の目的

当地区は長岡駅から南へ約3.5kmに位置し、江戸時代に交通の要所として栄え、**清酒・味噌・醤油製造業などが集中した「醸造のまち」**である。現在も、機那サフラン酒本舗の鍔絵の蔵をはじめ、17の国登録有形文化財（令和2年7月の答申を含む）など、多くの歴史的・文化的価値の高い資源が残っている。本事業では、これらの**地域資源を活かした歴史的な風情が感じられる街なみの形成**を進めていく。



2 事業概要

事業計画区域
事業期間
計画内容

約18.6ha
 H21年度～
 道路美装化、摂田屋公園整備、
 摂田屋地区情報発信拠点整備
 （旧機那サフラン酒本舗の改修）
 など



写真1 旧三国街道美装化整備

主な事業経過

H19年度 摂田屋地区まちづくり協議会発足
 H21～22年度 案内看板設置、下排水施設整備
 H25～30年度 旧三国街道美装化工事、
 摂田屋公園整備、修景施設整備、
 摂田屋地区情報発信拠点整備計画策定 など
 R1年度 米蔵改修工事、駐車場整備、修景施設整備
 R2年度 米蔵改修工事、修景施設整備

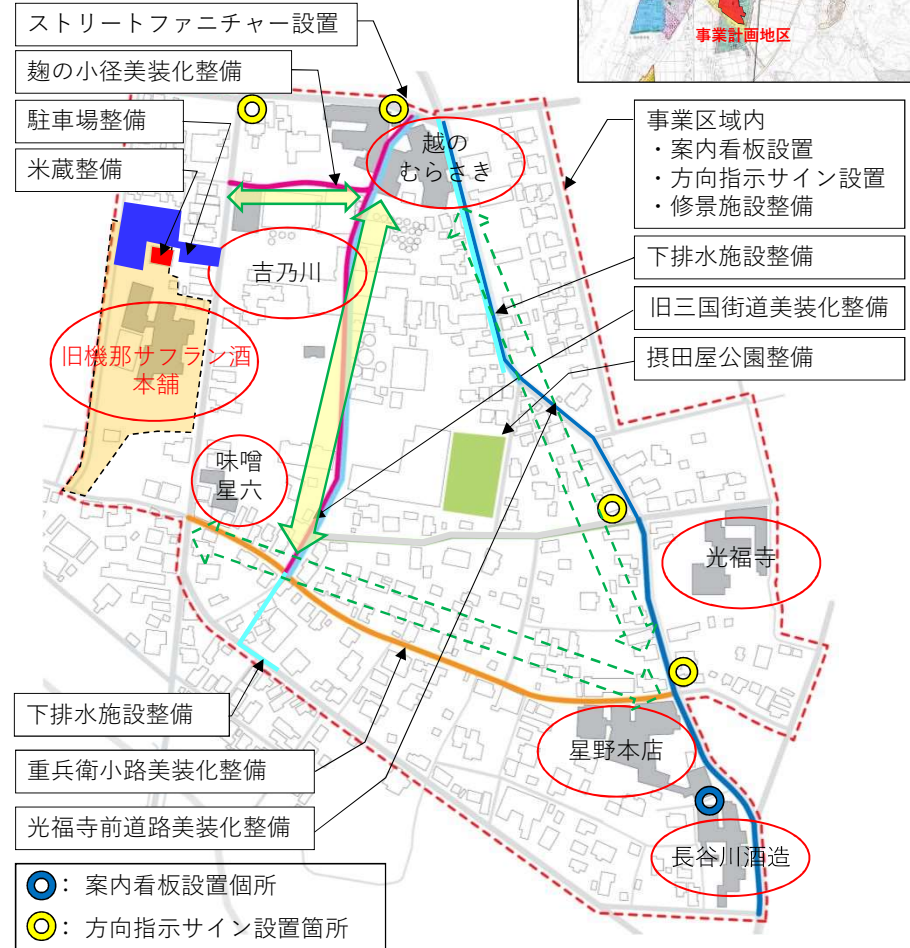


写真2 旧機那サフラン酒本舗米蔵の改修



写真3 摂田屋公園整備

事業概要図



1 整備に向けた基本的な考え方

- 旧機那サフラン酒本舗を活用した**情報発信・交流拠点**を整備し、**醸造のまち摂田屋の魅力**を全国に発信する。
- 民間活力を積極的に取り入れ、**建物改修の明確な役割分担と効率的な施設運営**により**事業費の削減**を図る。

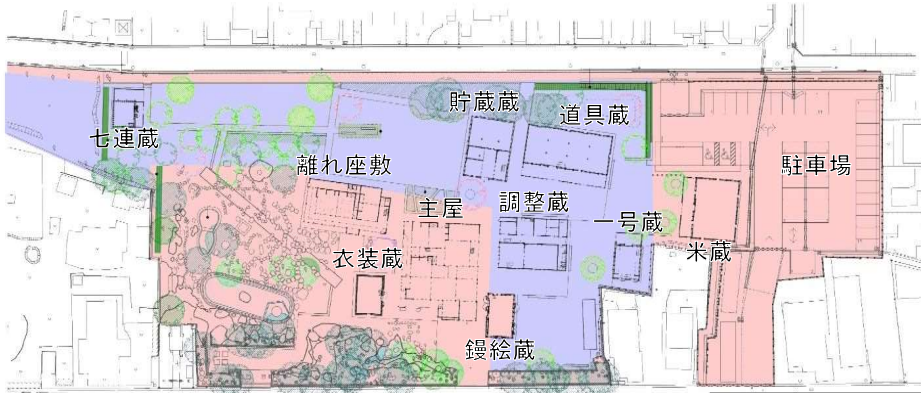


図1 旧機那サフラン酒本舗 整備方針図

3 管理・運営

○令和2年度の管理業務委託内容

- 委託事業者：ミライ発酵本舗株式会社
- 委託方法：包括業務委託
- 委託期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日
- 業務内容：観光事業に関する業務（観光案内、施設見学等）
施設管理に関する業務（清掃、警備等）

○将来的な管理運営方法

- 将来において入館料等料金徴収が適当と判断される場合、指定管理者制度（利用料金制度）の導入を検討
- 将来的な想定年間入込客数は以下のとおり
主屋・離れ座敷等第1期整備完了後：5万人を目標
全建造物等の整備完了後：10万人を目標



写真 令和2年度にプレオープンした米蔵

2 導入する機能（予定）

国の登録有形文化財である建築物等を活用し、以下の機能を導入する。

情報発信・交流の拠点

歴史的建造物群

- 登録有形文化財である唯一無二の歴史的建造物群を公開
- 産業王 初代吉澤仁太郎の魅力と機那サフラン酒の歴史
- 敷地内の散策ルート

醸造文化発信拠点

- 摂田屋地区の歴史・文化の紹介、醸造体験施設
- 醸造・発酵食品等の商品開発
- 摂田屋地区の蔵めぐりの拠点

長岡・魅力発信拠点

- 観光スポット・周遊情報を発信する観光情報コーナー
- 住民や観光客の交流の場
- 地元大学等と連携した新たな魅力づくり



図2 旧機那サフラン酒本舗整備イメージパース

4 スケジュール・事業費（予定）

R11年度までに全体の整備完了を目標とする。財政状況によっては、整備期間を延伸する。

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度～
施設整備	米蔵整備完了 ↓	主屋整備 ↓	離れ座敷整備 ↓	建築物整備（順次） ↓
	一部プレオープン ↑		庭園等整備（順次） ↓	
施設運営	民間事業者による管理運営			

○整備事業費(概算)：約10.5億円(平成30年11月時点の試算)※

- 用地費：約2.5億円 建物改修費：約6.5億円 外構整備費：約1.5億円
- ※ 整備にあたっては、今後の集客や、経済効果に見合った投資を検討する。

○財源内訳

- 国費：約4.5億円 起債：約5.1億円 一般財源：約0.9億円
- 街なみ環境整備事業等、国の制度を積極的に活用し、市の財政負担を軽減。

○管理運営事業費：20,594千円(令和2年度当初)

- 管理運営委託料は概算払いとし、業務完了後精算する。
- 令和3年度以降の管理運営事業費は、整備内容等を踏まえ設定する。

～栃尾支所周辺の公共施設再編の方向性～ 栃尾地域交流拠点施設(仮称)整備事業について

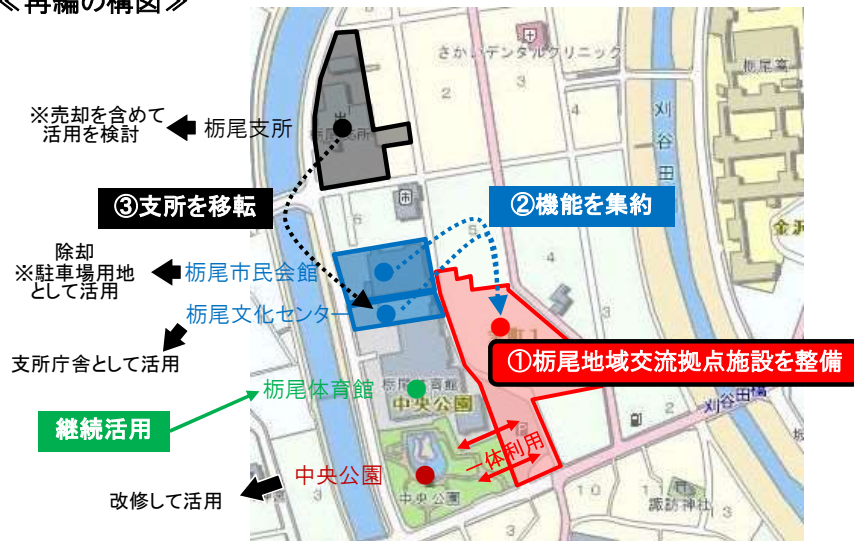
1. 目的

- 栃尾地域は人口減少・高齢化が著しく、活力が低下している。
- 支所周辺の一部の公共施設は、老朽化や耐震性の不足といった問題がある。
- そこで、既存の公共施設等を集約・再編する「栃尾地域交流拠点施設(仮称)」の整備等を行うとともに、生活利便性向上や多世代交流、にぎわい再生を図る。

2. 栃尾支所周辺における公共施設の再編の方向性

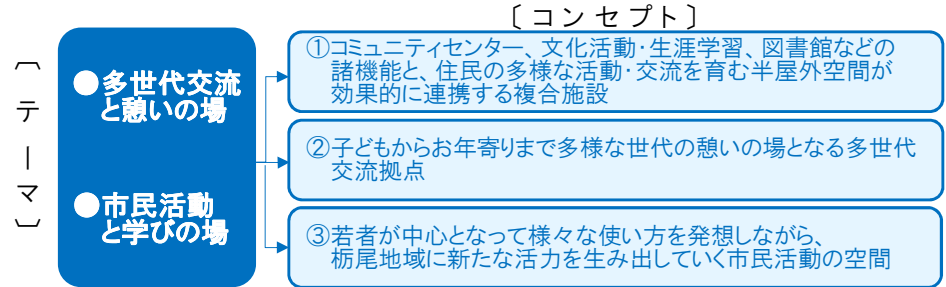
- 長岡市立地適正化計画及び長岡市公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再編をする。

＜再編の構図＞



- ①旧丹佐跡地等において、多世代交流、市民活動の拠点(栃尾地域交流拠点施設(仮称))を整備
- ②市民会館、文化センター等の機能を交流拠点施設に集約
- ③支所の機能を文化センターに移転(市民会館は除却、現支所庁舎は活用を検討)

3. 交流拠点施設のテーマと機能



【主な機能】
ホール、キッチンスタジオ、音楽スタジオ、調理室、和室、図書館、屋根付き広場ほか

【規模】
延床面積：約4,300㎡
※集会・交流部分の延床面積で約30%減

市民会館+文化センター	5,933.51㎡
新施設	4,317.74㎡
面積縮減率	▲27.2%

4. 地域交流拠点施設の整備手法及び事業費ほか

【整備手法】

- 設計施工一括発注方式
- ※業務範囲：設計、建築工事、造成工事、外構工事ほか
- ※設計施工一括発注のメリット
 - ・設計に施工者ノウハウを活かすことが可能
 - ・事業期間の短縮及びトータルコストの削減

【事業費】

約19億円

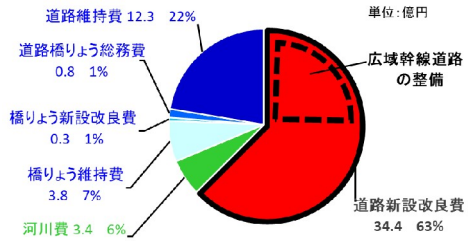
国費 49.5%	過疎債 50.5%	※国費 R1：社会資本整備総合交付金(国費率45%) R2～3：都市構造再編集中支援事業補助金(国費率50%) ※過疎債 充当率100%、元利償還の70%を交付税措置。 そのため市の負担は極力抑えられる(約2.9億円)。
-------------	--------------	---

【スケジュール】

- 令和元年度：事業者の公募・選定及び設計着手、用地取得
- 令和2年度：交流拠点施設建設工事着手
- 令和4年度：交流拠点施設供用開始、市民会館除却
- 令和5年度：文化センター改修
- 令和6年度：支所機能移転

広域幹線道路の整備

道路・河川事業の決算状況(令和元年度)

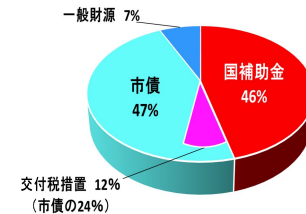


道路及び河川事業の投資的事業費55億円のうち、63%が「道路新設改良費」です。そのうち約4割が「広域幹線道路の整備」で、13.3億円となっており、財源の内訳として、6億円が国の補助金、6.3億円が市債、1億円が一般財源です。

■広域幹線道路の整備■

- 広域的な都市間の交流・連携の促進に向けて、高速道路の積極的な活用とともに、「ラダー型広域幹線道路網」の整備に取り組みます。
- 整備にあたっては、国の補助事業とすることで、財源の確保を図ります。

広域幹線道路の整備における財源内訳(令和元年度)



- 財源のうち、46%が国の補助金、47%が市債、7%が一般財源です。
- 市債のうち、12%は、交付税措置があります。

■ラダー型広域幹線道路網■

(出典:長岡版広域道路ビジョン)



■広域幹線道路の整備■

①左岸バイパス南北延伸(長岡北スマートIC～長岡南越路スマートIC)

長岡都市圏内の連携強化や、各地域の生活を支える社会基盤としての重要な役割を担い、「長岡南越路スマートIC」と「長岡北スマートIC」を結ぶ、信濃川左岸地域の南北方向の広域交通軸

	南延伸	北延伸
施工箇所	越路中沢～神谷(2.3km)	蓮濁町～古正寺町(2.3km)
事業期間	H27～R6(予定)	H27～R4(予定)
総事業費	約1.7億円	約3.0億円

(南延伸、北延伸ともに国費50%、市債45%、一般財源5%)

※南延伸については、上記施工箇所のほかに、西津町～越路中沢(1.8km)についても、調査を実施中

③長岡ニュータウン連絡道路

大積スマートIC(仮称)と西部丘陵地区を結び、さらには長岡東西道路を経て国道17号を結ぶ、長岡市の幹線道路

施工箇所	宮本東方町～大積善間町(1.4km)
事業期間	H31～R7(予定)
総事業費	約3.4億円(国費50%、市債45%、一般財源5%)

④大積スマートIC(仮称)

高速道路へのアクセス性を向上し、市内の道路ネットワークを強化することで、交流人口の増加や企業活動の活発化による地域の活性化、災害時における緊急避難路の確保や復旧・救護活動を支える道路網としてなど、多面的な効果を期待

施工箇所	宮本東方町～大積善間町
事業期間	R2～R7(予定)
総事業費	約1.3億円(国費50%、市債45%、一般財源5%)

■新潟県事業■

①フェニックス大橋4車線化

信濃川で分断されている東西市街地の一体化をより進めるため、橋りょう部の4車線化を新潟県に要望

②長岡東西道路4車線化(国道17号～新産)

都市間、地域間の連携・交流を促進するため、フェニックス大橋の開通による効果を最大限生かせるよう、4車線化の整備を新潟県に要望

中之島新ごみ処理施設(仮称)整備事業について

【1 目的・事業概要】

・既存のごみ処理施設の老朽化に伴い、市民の生活環境の保全を図るため、旧中之島クリーンセンター敷地内(中条新田)に新たなごみ処理施設(ごみ焼却施設・不燃粗大ごみ処理施設)をPFI方式により整備・運営するもの。

・ごみ焼却施設には、焼却によって発生する熱エネルギーの有効活用を図るための発電設備を付帯することで、FIT(固定価格買取制度)を活用した売電を実施。

《施設概要》

- ごみ焼却施設
処理方式：ストーカ炉
発電設備：高効率ごみ発電設備(固定価格買取制度を活用した売電を実施)
焼却能力：82 t/日(41t/24h × 2炉)
- 粗大不燃ごみ処理施設
処理方式：低速回転破砕機、高速回転破砕機、破選機、アルミ選別機
処理能力：21 t/5h(1基)



整備予定地



施設完成予想図

【2 事業スケジュール】



・PFI方式により民間事業者が資金調達し、設計・建設(4年)及びその後の運営(15年)を一括

【3 整備・運営手法及び事業費】

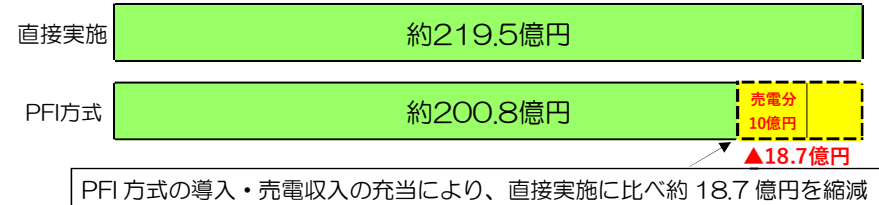
《整備・運営手法》

- ・PFI方式により民間の創意工夫による財政負担縮減及び公共サービス水準向上を図る。
- ・売電により見込まれる収入(約10億円)を予め整備事業費に充当し契約額を縮減。

《整備事業費》

約200.8億円(R2.3.26~R21.3.31のPFI事業者との事業契約額)

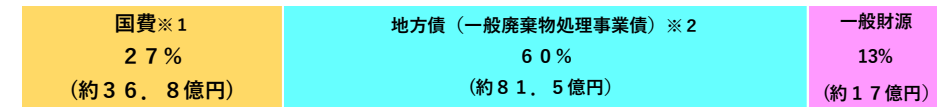
■整備事業費の比較(市が直接実施した場合とPFI方式)



《事業費内訳》

[設計・建設業務] 約135.3億円

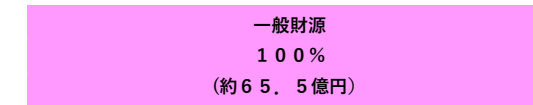
■財源内訳



※1:循環型社会形成推進交付金 ※2:地方債は、元利償還金に対して交付税措置あり

[維持管理・運営業務] 約65.5億円

■財源内訳



建設・運営費とも一般財源部分は運営期間(15年)における均等払いとし、財政負担の平準化を図る。

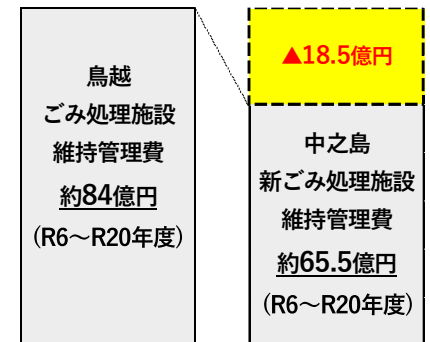
【4 事業効果】

- ・令和6年度からの新ごみ処理施設稼働に伴い鳥越クリーンセンターのごみ焼却施設・不燃粗大ごみ施設を廃止。

15年間で約18.5億円の経費縮減



鳥越クリーンセンター



長岡北部地域斎場（仮称）の整備について

■斎場整備の目的・必要性

長岡北部地域（中之島地域、三島地域、和島地域、寺泊地域、与板地域、出雲崎町）の火葬を行っている与板無憂苑斎場と寺泊斎場は老朽化が進み、間もなく施設としての寿命を迎えます。一方、同地域では年間500件以上の火葬が行われており、今後も同等の火葬需要が見込まれています。

地域の火葬需要に対応するため、両斎場を統合する新たな斎場を整備するものです。

■環境への影響

現代の斎場は煙突がありません。高性能のバーナー、集塵機などを用いて、目に見えるすす、化学物質等を徹底的に取り除くため、においのない透明の排気となります。



建物イメージ

地域住民の心情や生活環境に考慮し、周辺の緑や地形を活かして集落や幹線道路から施設が直接見えないよう配慮します。また見た目も景観と調和しつつ、斎場を意識させないモダンな外観、内装とします。

※写真は栃尾斎場（平成29年築）

■プロフィール

和島地域荒巻区内

敷地面積約2万㎡ 建物面積約1,000㎡

火葬炉3炉 年間約600～650体の火葬能力

栃尾斎場（平成29年築）と同等規模を想定

令和2年度整備事業開始

令和10年度供用開始予定



道の駅ながおか花火館

1 目的・成果目標

道の駅ながおか花火館は、1年を通じて市民の誇りである長岡花火を核とした地域資源の魅力を発信し、交流人口の増加、地域の活性化、道路利用者の利便性の向上及び防災機能の強化を図る観光拠点施設として整備。

「県外からの観光の目的地となり得る施設」と長岡市観光戦略プランでも位置付けられており、年間100万人の観光入込客数を目指す。

入込客数(9月) 9.18~9.30	入込客数(10月) 10.1~10.17	30日間の合計
127,620人	127,987人	255,607人

2 施設の概要

- ◆路線面：一般国道8号
- ◆整備手法：一体型の道の駅として整備
- ◆所在地：新潟県長岡市喜多町707番地
- ◆敷地面積：約28,900㎡（市：約16,000㎡、国：約12,900㎡）
- ◆施設整備：市：地域振興施設（長岡花火ミュージアム、地場産品売場、レストラン、フードコート、催事スペース、多目的広場、駐車場166台、ベビーコーナー、公衆電話、急速充電設備2台、公衆無線LAN環境、防災倉庫ほか）
国：道路情報提供施設（道路交通情報・地域情報発信コーナー、休憩コーナー、駐車場117台、24時間トイレ34器・ベビーコーナー）



3 施設の機能

- ◆長岡花火をはじめ、長岡の魅力や多様な地域資源を知ってもらう「情報発信機能」
- ◆地元ならではの飲食メニュー、地場産品の販売、各種イベントを通じて「地域振興・交流機能」
- ◆自家用車や観光バスなどの道路利用者に対して「休憩機能」
- ◆道路利用者の一時避難場所や隣接する防災ヘリポートと連携した後方支援拠点として「防災機能」



4 整備スケジュール・事業費

◆総事業費：約29億円（市：約21億円、国：約8億円）

（単位：百万円）

◆長岡市整備分

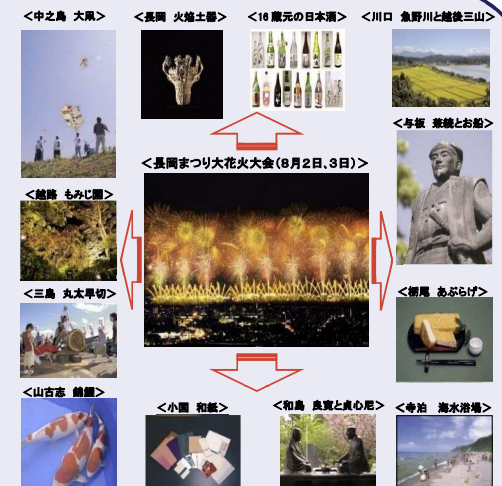
年度	平成29年度 (決算額)	平成30年度 (決算額)	令和元年度 (決算額)	令和2年度 (予算額)	合計	
事業費	27	312	942	816	2,097	
財源	国交付金	12	0	11	1	24
	市債	0	246	896	679	1,821
	一般財源	15	66	35	136	252
実施内容	事業実施計画策定	調査・設計、用地取得	造成、建築、外構整備工事	建築、外構整備工事		

5 管理運営手法・管理運営費

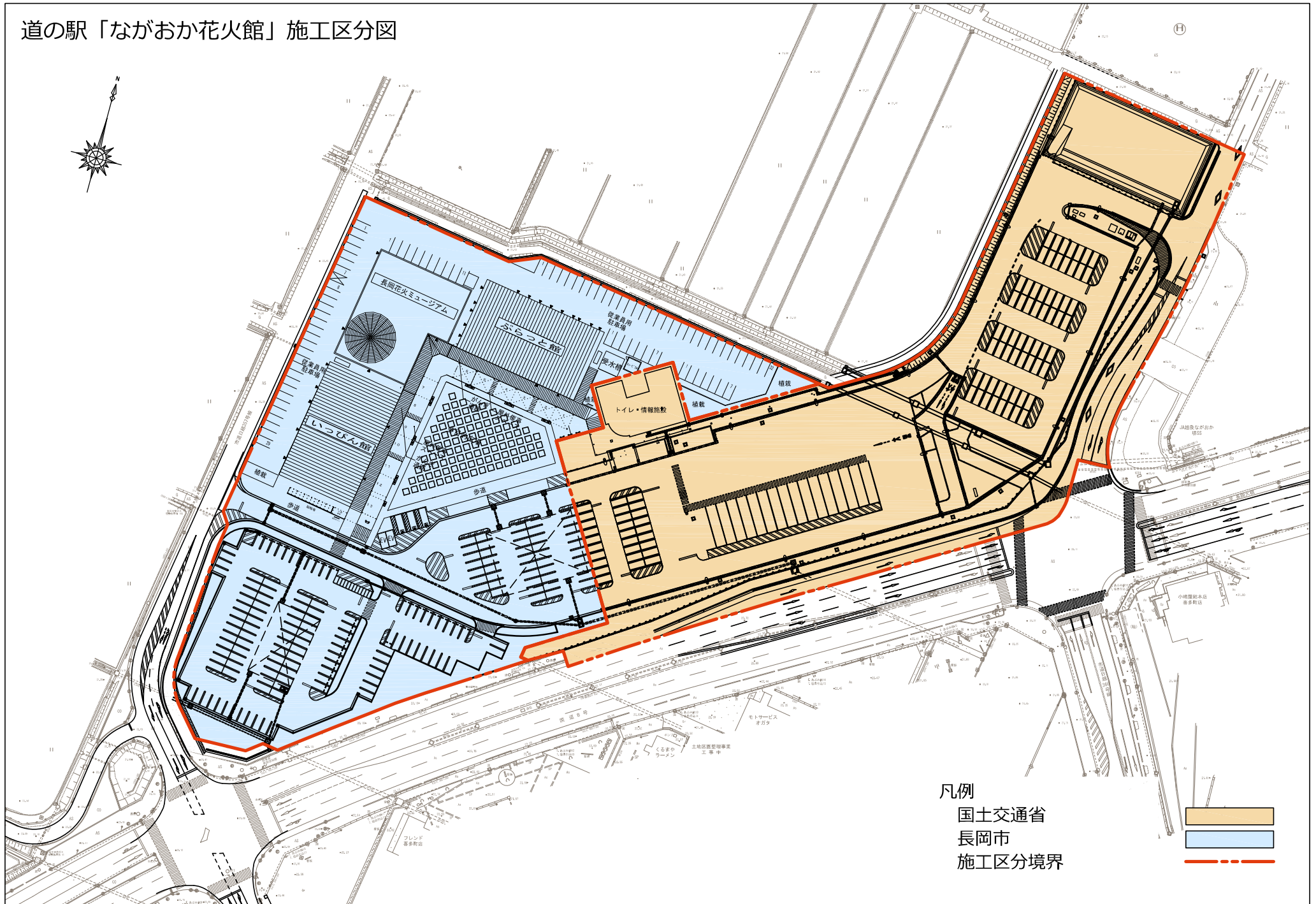
- ◆施設や外構を市が整備し、管理運営は指定管理者制度を導入して民間のノウハウを活用
- ◆施設全体の内装工事や備品調達等を指定管理者が行うことから、指定管理期間は14年9か月
- ◆長岡花火ミュージアムの委託料は総額で約6億8千万円（年間：約4千6百万円）
- ◆いっぴんモールとぷらっとモールの管理運営に要する費用は両施設の収益で賄う
- ◆指定管理者は年度ごとの経営状況に応じて、収支差額の一部を市へ納付（利益還元納付金）

6 広域観光・地域活性化のイメージ

- ◆地域の動脈である国道8号沿いに位置し、高速道路にも近く、観光・地域情報や道路情報を提供する新たな長岡観光のゲートウェイとして活用
- ◆既存の道の駅（和島、栃尾、川口）や醸造のまち撰田屋地区など市内全域を巡らせる仕組みを構築し、交流人口の増加を図る
- ◆地域の伝統芸能を披露する場や、起業を志す若者のチャレンジショップとしての活用により、伝統文化の継承、市民力の底上げにも貢献



道の駅「ながおか花火館」施工区分図



凡例
 国土交通省
 長岡市
 施工区分境界

